

ギター

荘村清志

9歳よりギターを始める。1963年に巨匠イエペスに認められ、翌年スペインで師事。71年には北米で28に及ぶ公演を行い、国際的評価を不動のものにした。74年にはNHK教育テレビ「ギターを弾こう」に講師として出演し、一躍全国にその名と実力が知られることになった。2007年NHK教育テレビ「趣味悠々」のギター講師として再登場し、改めて日本ギター界の第一人者としての存在を強く印象づけた。08年バルバオ交響楽団の定期演奏会に出演。同団とは《アランフェス協奏曲》を録音、09年にCDをリリースした。15年にはイ・ムジチ合奏団と共演、録音も行った。2017年からギターの様々な可能性を追求する「荘村清志スペシャル・プロジェクト」(全4回)に取り組み、さだまさし、coba、古澤巖、錦織健らと共演し、ジャンルの垣根を越えたコラボレーションが話題となる。最終回ではcobaに委嘱したギター協奏曲も演奏し、注目を集めた。2019年にはデビュー50周年を迎え全国でリサイタルを開催。2020年、書籍「弾いて飲んで酔いしれてギターとともに50年」(吉田純子編著)を出版。2021年10月にアルベニスの作品を集めた最新盤「旅の思い出」をリリース。現在、東京音楽大学客員教授。

指揮

米田覚士

幼少よりピアノを始め、桃太郎少年合唱団、岡山市ジュニアオーケストラに所属し打楽器を担当。2016年東京藝術大学音楽学部指揮科に入学、2020年3月同大学を卒業。平成30年度安宅賞受賞。指揮法を小田野宏之、高関健、ピアノを長瀬智弘の各氏に師事。2017年6月に東京音楽大学特別講座指揮公開マスタークラスのオーディションに選出され、パーヴォ・ヤルヴィ氏のレッスンを受講。同年8月に熊本県立劇場にて山田和樹氏による公開講座を受講。2017年東アジア教育フォーラム特別演奏会 Voice of Okayamaにて岡山大学交響楽団、早稲田大学グリーンクラブ、岡山県内大学合唱団と、混声合唱オーケストラのためのカンタータ「土の歌」を指揮。2020年渋谷区文化総合センター大和田開館10周年記念演奏会にて大和田祝祭管弦楽団と「ラプソディ・イン・ブルー」を演奏した。2021年フジテレビ主催、ノイタミナpresentsシネマティック・オーケストラコンサートにて東京21世紀管弦楽団へ客演した。2021年10月に行われた、第19回東京国際音楽コンクール入賞(日本人最高位)、あわせて奨励賞を受賞。

テノール

内山信吾

武蔵野音楽大学声楽科卒業、同大学院修士。第36回日伊声楽コンクール入選。ドイツ・ブラウンシュヴァイク歌劇場と契約しオペラ等出演。帰国後、東京文化会館小ホールにてリサイタルを行う。2003年より新国立劇場主催公演《椿姫》《オテロ》《ナブッコ》《マクベス》《蝶々夫人》《ホフマン物語》など多くの舞台に出演。20/21シーズンでは新型コロナウイルスの影響により来日不可能となった外国人歌手に代わり《イオランタ》ヴォデモン伯爵役にて出演を果たした。また東京オペラ・プロデュース主催公演他、市民団体主催公演などの多くのオペラに出演。《トゥーランドット》カラフ、《仮面舞踏会》リッカルド、《道化師》カニオ、《アラベラ》マッテオ、《シラノ・ド・ベルジュラック》タイトル・ロールなど高い評価を得ている。特に《カルメン》ホセ役には定評があり30回以上の出演を重ねている。日伊音楽協会会員。東京オペラ・プロデュースメンバー。足利オペラ・リリカ専属アーティスト並びに研究科講師。

メゾソプラノ

小川明子

東京藝術大学卒業、同大学院修了。文化庁オペラ研修所第10期修了。1992年第61回日本音楽コンクール声楽部門第2位。1993年第4回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位(山田耕祥賞)。1997年文化庁派遣芸術家在外研修員としてウィーンに留学。ヘンデル、バッハ等の宗教曲やマーラーの交響曲などに出演。近年は日本歌曲の演奏に力をそそぎ、CD「日本歌曲選」、「啄木とみすゞを歌う」、「からたちの花 山田耕祥歌曲集」、「荒城の月 国楽を離陸させた偉人たち」、「さくら横ちょう 中田喜直4つの歌曲集」、「早春賦 日本歌曲選2」、「落葉松 アルトとギターで紡ぐ日本の歌」、「お菓子と娘 橋本國彦歌曲集」、「海ゆかば 信時潔歌曲集」をリリース。二期会会員。

バリトン

ヴィタリ・ユシュマノフ

サンクトペテルブルク生まれ。マリインスキー劇場の若い声楽家のためのアカデミーで学ぶ。ライブツィヒのメンデルスゾーン・バルトルディ音楽演劇大学を卒業。2013年以来、度々来日し各地で演奏。2015年春より日本に拠点を移す。CDも『「夢」探しながら -日本名歌集2-』(オクタヴィア)をなど4枚をリリース。日本では2019年に「ドン・ジョヴァンニ」をタイトル・ロール、2020年秋には「フィガロの結婚」アルマヴィーヴァ伯爵役、2021年4月には新国立劇場にて、「夜鳴きうぐいす」「イオランタ」に出演するなど多数のオペラに出演。またプレトニョフ指揮、ロシア・ナショナル管との演奏会形式に出演するなどオーケストラとの共演も多い。日本トスティコンクール第1位、日伊声楽コンクール第1位ほか受賞歴多数。

台本・語り

しげもとまさあき

山口県岩国市生まれ。東京藝術大学音楽学部声楽科を受験し首席で失敗、慶応義塾大学文学部史学科(インド仏教史)卒。32歳で素人落語を始めると同時に、歌いながらオペラのストーリーを語る「オペラ落語」を開発、37歳でプロ宣言し第一人者となる。全国各地で2000ステージを務める。50歳からはオペラ・ナビゲーターとして、コンサートの構成・台本・作詞を行い、司会や役者として関わる。

東京21世紀管弦楽団 Tokyo 21c Philharmonic

音楽を通して、多くの人たちと手を携え、今までの固定観念にとらわれない新しい時代の「楽しいオーケストラ」を目指して、演奏活動を進めていくオーケストラ。これまでに2019年オスカー新人賞を受賞したテノールのステファン・ポップの日本公演、オペラ界のビッグスター、テノールのファン・ディエゴ・フローレスの日本公演に出演し、好評を博した。浮ヶ谷孝夫(ブランデンブルク国立管弦楽団フランクフルト首席客演指揮者)を音楽監督に迎え、2020年度は東京芸術劇場でベートーヴェンやブラームスといった重厚なドイツ音楽で定期演奏会を行い高評を博した。このほかバレエやポップスにも出演するなど活動の場を広げている。

